

日本語母語話者と中国人学習者の「てくれる」文容認度の違いについて
—先行する動詞が「てくれる」の習得に及ぼす影響—

末繁 美和 (北見工業大学国際交流センター)

Abstract

The purpose of the present study is to investigate the difference of acceptability of “*te-kureru*” (a Japanese benefactive auxiliary verb) sentences between native Japanese speakers and Chinese learners. In the survey, native Japanese speakers and Chinese learners were asked to judge whether twenty-four sentences including *te-kureru* were natural or not. The results showed that Chinese learners tended not to accept *te-kureru* sentences compared to native Japanese speakers; in particular, intermediate and advanced learners had a narrower acceptance of them. In addition, both native Japanese speakers and Chinese learners had a wider acceptance of *te-kureru* sentences following a three-place verb, but not so much of *te-kureru* sentences following a one-place verb. The results suggest that *te-kureru* sentences following a three-place verb are most typical in Japanese *te-kureru* sentences and that it is easy for Chinese learners to learn this pattern.

1. はじめに

日本語の授受表現の習得は、日本語を第二言語として学ぶ学習者にとっては、困難であることが指摘されている (大塚, 1995 ; 坂本, 2000 など)。日本語の授受動詞は、他言語には見られない 3 項目体系 (「(て) あげる」「(て) もらう」「(て) くれる」) であるため、3 つの授受動詞の使い分けの難しさを指摘する研究は多い。しかしながら、3 つの授受動詞間の混同以上に多く見られる問題として、授受補助動詞「てくれる」の非用が挙げられる (大塚, 1995)。「てくれる」は、「てあげる」「てもらう」とは異なり、行為の受け手が文の表層レベルで顕現することが義務的ではなく、話し手が恩恵を感じれば、どのような動詞にも接続することができる。したがって、習得が容易であると考えられるが、日本語学習者は、どの動詞にも「てくれる」を接続するわけではなく、「てくれる」と結びつけやすい動詞とそうでないものがあるという (岡田, 1997)。

そこで、本研究では、日本語学習者において、最も非用が多く見られる「てくれる」を対象に、「てくれる」に先行する動詞の種類が「てくれる」文の習得にどのように影響するのかを探る。

2. 先行研究と問題の所在

日本語の授受補助動詞は、「てあげる」「てくれる」「てもらう」の3つの動詞から成り、「受益表現」と呼ばれることから分かるように、授受の対象に対する恩恵性を表す特徴がある(益岡, 2001)。これまで、これら3つの授受補助動詞の習得順序に焦点を当てた研究が多くなされ、その習得の難しさが指摘されている。特に、日本語学習者は、「てくれる」の使用率が低く、学習が進んでも、日本語母語話者の出現率の半分以下であることが報告されている(大塚, 1995)。では、なぜ「てくれる」は、日本語学習者にとって難しいのだろうか。

韓(2005)は、韓国語の「어주다 (テアゲル・テクレル)」と日本語の「てあげる・てくれる」を比較し、日本語の授受補助動詞に含意される恩恵性の認識の難しさを指摘している。授受の行為には、「恩恵」(授受される対象の好ましさ)の他に「移動」(対象の移動)という2つの側面がある。この2点に関し、日本語と韓国語の特徴を比較したところ、(1)のように、日本語の「てあげる・てくれる」では、対象の移動は必ずしも含意されず恩恵の意味のみを表すことができる。一方韓国語の「어주다 (テアゲル・テクレル)」は必ず対象の移動が含意され、「恩恵」の意味のみを表すことができないことを指摘している。

(1) a. 花子が私に{買って/作って}くれたかばんをまだもらっていない。

b. *영희가 나에게 {사/만들어} 준 어주다 아직 받지 못했다.

(*ヨンヒが私に{買って/作って}くれたかばんをまだもらっていない。) (韓, 2005 : 225)

したがって、日本語の「てあげる・てくれる」においては、「恩恵」を表す機能的役割が大きく、反対に韓国語では「恩恵」よりも「移動」に関する含意が必須となる。このような日本語の授受表現が含意する「恩恵」への認識の欠如が、「てくれる」の非用につながった可能性がある。

また、学習者の母語と日本語との間の視点や志向の違いも、「てくれる」脱落の要因であると考えられることができる。水谷(1985)は、「母がお金を送りました」のような話し手の立場が見えない表現の不自然さを指摘し、話し手を中心に出来事を描写する日本語の特徴を「立場志向型」と呼んだ。一方、英語や中国語、韓国語では前述のような表現が可能であり、事実をそのまま叙述するような表現型を「事実志向型」とした。日本語学習者の漫画描写に出現した立場志向文を分析した大

日本語母語話者と中国人学習者の「てくれる」文容認度の違いについて
—先行する動詞が「てくれる」の習得に及ぼす影響—

塚 (1995) は、立場志向文の中でも、話し手の視点が文の主題人物に一致する「てあげる」「てもらおう」に比べ、話し手の視点が受け手寄りである「てくれる」文の習得が難しいことを報告している。

構文における視点の位置（主語なのか目的語なのか）以外にも、「てくれる」には、学習者の習得を難しくさせる他の2者とは異なる特徴や働きがある。西川 (1995) は、Masuoka (1981) が、「てやる」「てもらおう」「られる」「てくれる」について (2) のような基底構造を提案していることに基づき、「てくれる」は、恩恵の受け手および与え手が、「てやる (てあげる)・てもらおう」とは異なると述べている。

- (2) a. [X が Y のために[X が・・・V]てやる]
 b. [X が Y に[Y が・・・V]てもらおう]
 c. [X が Y に[Y が・・・V]られる]
 d. [[X が・・・V]てくれる]

(西川, 1995:55)

西川 (1995) によると、「てやる (てあげる)」「てもらおう」「られる」でマークされる事象が、行為者と被行為者の2者の存在が義務的であるのに対して、「てくれる」にはそのような制約がないという。つまり、「てくれる」の場合、恩恵の与え手は事象自体であり、恩恵の受け手は表現主体であるため、「てやる (てあげる)」「てもらおう」のように、行為の与え手が有生のものであることや、行為の受け手が文の表層レベルで顕現することが義務的でなくてもよいという特徴があることを西川 (1995) は指摘している。したがって、行為者が無生で被行為者がいない「降る」のような1項動詞であっても、話し手（表現主体）が恩恵を感じれば、「雨が降ってくれた」と言うことができる。

上述のように、「てくれる」は、「てあげる」「てもらおう」に比べ、幅広い動詞に接続することができると言える。しかしながら、日本語教授場面では、3者を授受補助動詞として一括りに教えられることが多いため、このような「てくれる」の特徴を認識することが難しいと考えられる。岡田 (1997) は、初級終了・中級前期・後期の英語、中国語などの言語を母語とする学習者に対し授受動詞の正用・誤用を調査し、中級レベルで「てくれる」の非用が見られる文の動詞にいくつかの傾向があることを報告している。以下は非用が見られる動詞のタイプである。

- (3) a. 複合動詞：[連れていく, 持ってくる／使役形]
 b. すでに恩恵を含意している動詞：[励ます]
 c. 間接的な恩恵を表す動詞：[わかる, 食べる, 借りる]
 (行為の主体にとっても何らかの形で益のある行為)
 d. 3人の人物が関わる行為/「恩恵の受け手」とは別の人物に動作が向けられる場合：
 [Xは(私を)Yに紹介する, Xは(私の)～をYに渡す]

(岡田, 1997 : 84)

反対に、初級終了から中級後期にかけて出現数の高かったものとして「教える, 作る, 手伝う, 貸す」等があるが、これらは授受構文の導入時に恩恵行為の対象としてよく用いられる動詞である。岡田(1997)は、この結果から先行する動詞によって「てくれる」の使用・非用が左右されるという可能性を示唆してはいるが、その詳しい検証は行っていない。学習者の日本語において、「てくれる」がどのような動詞と共に出現しやすく、またどのような動詞の場合には非用が見られるのかを探ることは、学習者が「てくれる」構文に対してどのような典型的な意味を見出しているかを知る重要な手がかりとなる。しかしながら、これまでは「てくれる」の非用の部分にのみ焦点が当てられ、非用・正用を含めた「てくれる」と動詞の結びつきについての研究はほとんどなされてこなかった。

そこで、本研究では、行為者および被行為者が存在し、物の「移動」と「所有」が認識されやすい3項・2項動詞と、認識されにくい1項動詞に接続する「てくれる」文に対する容認度テストを日本語母語話者および中国人学習者に実施し、動詞により容認度が異なるのかを探る。

3. 本研究の目的

本研究では、日本語母語話者および中国人学習者に対し、「てくれる」文の自然さを判定する容認度テストを実施し、先行する動詞の種類により、「てくれる」の習得が左右されるのか否かを探る。中国人学習者を対象とする理由は、中国語と日本語の授受の体系が大きく異なり、「てくれる」の非用が多く報告されているからである。

(課題1) 日本語母語話者と中国人日本語学習者では、「てくれる」の容認度に違いがあるのか

(課題2) 「てくれる」に先行する動詞の違いにより「てくれる」の容認度が変わるのか

日本語母語話者と中国人学習者の「てくれる」文容認度の違いについて
—先行する動詞が「てくれる」の習得に及ぼす影響—

4. 調査方法

4-1 調査参加者

調査参加者は、日本語母語話者 53 名および中国人日本語学習者 130 名（初級 31 名、中級 48 名、上級 51 名）であった。中国の大学で日本語を専攻する中国人日本語学習者を対象とし、初級・中級・上級のレベル判定は、学習年数を基準にした。調査時点で、1.5 年日本語を学習した 2 年生の学生を初級とし、学習年数が約 2.5 年である大学 3 年生の学生を中級、4 年生のうち、学習年数が 3.5 年以上で且つ日本語能力試験 1 級取得者を上級とした。また、被験者は全員日本への留学経験がない JFL (Japanese as a Foreign Language) 環境の学習者であった。

4-2 容認度テスト

調査では、筆者が作成した「てくれる」文の容認度テストを用いた。調査で用いた刺激文全項目を表 1 に示す。刺激文は、24 文あり、1 番から 24 番の「てくれる」を含む文を見て、その文を自分が第三者に向かって言う場合、「自然」であれば①番、「何らかの状況設定があれば自然」であれば②番を選択し（以下、「条件付 OK」）、問題文の前後にある空欄に、その状況設定を記入させた（前後どちらか一方でも構わない）。どのような状況設定においても「不自然」であれば③を選択するという 3 つの尺度の選択方式である。「てくれる」は、話し手が恩恵を感じれば、どの動詞にも接続できるという性質があるため、刺激文 24 文は、全て日本語として使用可能であると考えられる。しかし、行為者、被行為者、移動物が明示されるか否かや、恩恵性との結びつきやすさが動詞により異なり、自然か否かの判定が文脈に左右されるものがある¹。したがって、3 つの尺度を設けることで、「てくれる」文として典型的なものそうでないものが分かると考えた。

¹ 2 項動詞の「辞める」、1 項動詞の「死ぬ」および「混む」に接続した「てくれる」は、日本語母語話者でも容認率が 50% を下回っていたが、「私の罪を被って、友達が（私の代わりに）学校を辞めてくれました。」「誰か 1 人が死ななければ皆が助からないという状況になった時、友達が（皆のために）死んでくれました。」「運良く道路が混んでくれました。そのおかげで、事故に巻き込まれずにすみました。」のように、文脈を補うことで、自然な表現となる。

表1 容認度テストの刺激文

(a) 3項動詞

ともだち わたし ほん か
友達が私に本を貸してくれました。

ともだち わたし おく
友達が私にバースデーカードを送ってくれました。

ともだち わたし シーディー も
友達が私にC Dを持ってきてくれました。

じょうし わたし しょうらい やくそく
上司が私に将来を約束してくれました。

ともだち わたし ちゅうごくご おし
友達が私に中国語を教えてくださいました。

ともだち わたし さそ
友達が私をパーティーに誘ってくれました。

ともだち わたし い
友達が私に「きれいですね」と言ってくれました。

(b) 2項動詞

ともだち わたし ゆうしょく つく
友達が私に夕食を作ってくれました。

ともだち わたし か
友達が私にプレゼントを買ってくれました。

ともだち わたし うた うた
友達が私に歌を歌ってくれました。

ともだち わたし きょうりょく
友達が私に協力してくれました。

ともだち わたし ほ
友達が私を褒めてくれました。

ともだち わたし げ
友達が私を励ましてくれました。

ともだち わたし わ
友達が私を分かってくれました。

ともだち わたし しか
友達が私を叱ってくれました。

ともだち わたし わら
友達が私を笑ってくれました。

ともだち わたし あに ころ
友達が私の兄を殺してくれました。

ともだち がっこう や
友達が学校を辞めてくれました。

(c) 1項動詞

ともだち いっしょ
友達が一緒にいてくれました。

ともだち な
友達が泣いてくれました。

ともだち はし
友達が走ってくれました。

あめ ふ
雨が降ってくれました。

ともだち し
友達が死んでくれました。

どうろ こ
道路が混んでくれました。

刺激文は「友達が私に(を)~てくれました」という構文を基本とし、「てくれる」に先行する動詞

日本語母語話者と中国人学習者の「てくれる」文容認度の違いについて
—先行する動詞が「てくれる」の習得に及ぼす影響—

のみを変化させることで、自然・不自然の判定に関わる動詞以外の要因を極力排除した。ただ、「殺す」という動詞に関してのみ、「友達が私を殺してくれました」という文は、自分が第3者に向かって言う場合成立し得ないため、「私を」の部分で「私の兄を」にしてある。動詞の種類別の内訳は、3項動詞が「貸す・送る・持って来る・約束する・教える・誘う・言う」の7つで、2項動詞は「作る・買う・歌う・協力する・褒める・励ます・分かる・叱る・笑う・殺す・辞める」の11個、1項動詞は「いる・泣く・走る・降る・死ぬ・混む」の6つである。項による分類は、池原(1997)と趙(1995)の分類に基づいて行った。しかしながら、同じ動詞でも、動詞のどの意味で、或いはどの構文で使用されるかで、項の数が変わってくるため、1つの動詞が1項から3項全ての格構造で用いられるという問題が出てくる。従って、ここでは調査の問題文で使った「てくれる」文を平叙文(「てくれる」を除いた文)にした場合に動詞が取る項の数で分類した²。各項の動詞はランダムに配置し、テスト用紙の最後に、日本語母語話者には個人情報である性別・年齢・出身地の記入欄を設けた。一方中国人学習者へは、前述の3つに加え、日本語の学習年数・これまで使用した日本語教科書・日本語能力試験の取得級・留学経験の有無についても項目を設けた。

日本語母語話者と学習者へのテストは、内容に関しては全く同じであるが、学習者のテストは、問題の回答方法への理解を徹底させるため、問題文の日本語以外、問題指示文や選択肢等は全て学習者の母語である中国語で表記した。なお、テストで使用した動詞24個は「殺す」「励ます」の2つを除いて、残りは全て『みんなの日本語』I・IIで導入される初級レベルの動詞であるが、その動詞を知っているか(覚えているか)知らないかに解答が左右されて、本来の「てくれる」と動詞の関わりが見えなくならないよう、各動詞には、中国語の対訳をつけた。

4-3 調査方法

テストは、日本語母語話者に対しては、2007年の10月に、九州大学の教室において、一斉に回答・回収した。所要時間は10分程度であった。一方、中国人学習者へのテストは、曲阜師範大学の日本人教師1名・中国人教師1名の協力を得て、各教師の授業の10分間を使い、一斉に回答・回収を行った。テスト中の私語や辞書で調べる行為は堅く禁止した。テスト用紙は両面印刷1枚で、回答は、テスト用紙の選択肢の番号を直接丸で囲む方法をとった。②番を選択した場合には問題文の前後に状況設定を記述しなければならないが、その際日本語と中国語の両言語の何れでの記入も

² 「作る」「買う」「歌う」は、問題文では3項の格配置になっているが、これは「てくれる」構文になったことで格が増えたと判断し(三宅, 1996), 本研究では2項と分類する。

可とした。

5. 結果と考察

5-1 日本語母語話者と中国人学習者の「てくれる」文の容認度

日本語母語話者と初級から上級の中国人学習者で、「てくれる」文の容認度が異なるのか否かを検討するために、「自然」および「条件付き OK」の選択率を比較したところ、日本語母語話者は 85%であったのに対し、中国人学習者は 73%であり、中国人学習者の容認度が若干低いことが分かった。日本語母語話者および中国人学習者の各項目選択の割合を図 1 に示す。

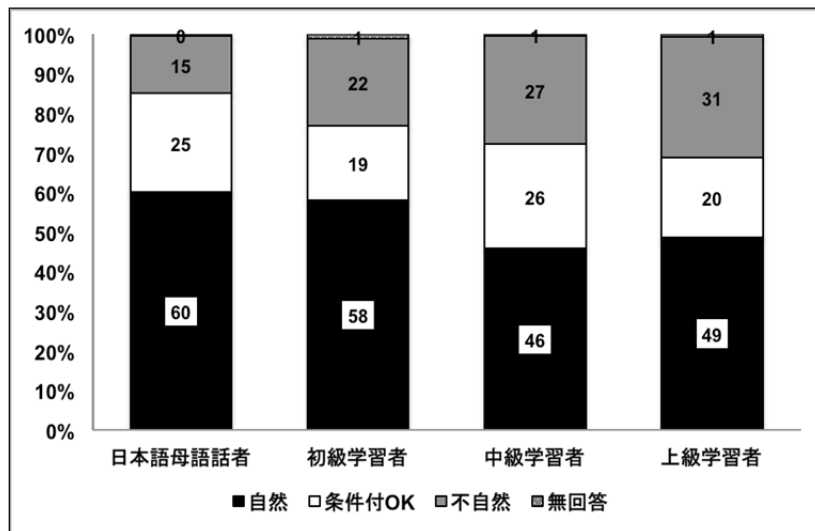


図 1 日本語母語話者および中国人学習者の回答項目の選択割合 (%)

中国人学習者の中で、最も容認度が高いのは初級学習者であり、「自然」および「条件付 OK」を合わせると、77%で、日本語母語話者に近い傾向を示していた。一方、中級および上級学習者は、「自然」を選択する割合が 50%以下であり、「不自然」の選択率も 30%前後と、日本語母語話者に比べ高い。この違いを詳細に分析するため、4 グループにおける項目選択数の差を χ^2 検定により検討した結果、その差は統計的に有意であった ($\chi^2(9)=130.62, p<.001$)。つまり、4 グループの項目選択数には、違いがあることが分かった。日本語母語話者および中国人学習者の各回答項目の選択数および調整済み標準化残差を表 2 に示す。

日本語母語話者と中国人学習者の「てくれる」文容認度の違いについて
—先行する動詞が「てくれる」の習得に及ぼす影響—

表 2 日本語母語話者および中国人学習者の各回答項目の選択数（残差）

		日本語母語話者 <i>n</i> =53	初級学習者 <i>n</i> =31	中級学習者 <i>n</i> =48	上級学習者 <i>n</i> =51
自然	選択数（残差）	764 (6.1**)	432 (3.1**)	528 (-5.5**)	596 (-3.4**)
条件付 OK	選択数（残差）	317 (2.1*)	139 (-3.0**)	304 (3.3**)	245 (-2.8**)
不自然	選択数（残差）	185 (-9.0**)	164 (-1.1)	314 (3.4**)	374 (6.7**)
無回答	選択数（残差）	6 (-1.1)	9 (1.9)	6 (-0.8)	9 (0.3)

p<.01** *p*<.05*

残差分析を行ったところ、「自然」の選択は日本語母語話者および初級学習者に顕著に見られた。しかし、日本語母語話者は「条件付 OK」を選択する傾向があるのに対し、初級学習者は選択しない傾向が見られた。一方、中級学習者では、「条件付 OK」および「不自然」を、上級学習者は「不自然」を選択する傾向があることが明らかになった。以上の結果から、日本語の習熟度が高い学習者よりも、低い学習者のほうが「てくれる」文の容認度が高く、日本語母語話者に類似した傾向を示すことが分かった。この結果は、「てくれる」の習得状況がレベルに逆行しているように見受けられるが、初級学習者は、日本語母語話者に比べ「条件付 OK」を選択しない傾向があることから、文脈がなければ「てくれる」に先行しにくい動詞があることまでは理解できていないと思われる。したがって、習熟度の低い学習者における「てくれる」文の容認度の高さは、学習者の U 字型発達曲線 (Kellerman, 1985) を反映している可能性が高い。つまり、学習初期では、「てくれる」導入時に学習したルールや、一緒に導入された動詞がかたまりで記憶されており、その情報を基に「自然」か否かの判断を行っていると考えられる。田中 (1999) では、「どうしていつも困った質問ばかりしてくださるんですか」という誤用が上級学習者に見られることが報告されているが、このような語用論的な面については、初級学習者はまだ習得できていないと言える。したがって、「てくれる」の使用が制約される場面に対する理解（否定証拠）が乏しく、「条件付 OK」や「不自然」ではなく、「自然」を選択しやすいと考えられる。しかし、本研究で使用した刺激文は、どの文も文脈があれば使用可能であったことから、結果的に日本語母語話者に類似した傾向になったと言える。一方、中上級学習者では、文としての正しさだけでなく、コンテキストとの関係性についても考慮した結果、「条件付 OK」や「不自然」を選択する学習者が増えたと考えられる。

5-2 先行する動詞が「てくれる」文容認度に与える影響について

日本語母語話者および中国人学習者の3項動詞、2項動詞、1項動詞における「自然」「条件付OK」「不自然」の選択率を図2および図3にそれぞれ示す。日本語母語話者および中国人学習者の動詞別の「てくれる」文の容認度を調べるために、「てくれる容認率」を算出した。「てくれる容認率」は、「自然」「条件付OK」「不自然」の回答数を分母におき、回答者が「自然」および「条件付OK」を選んだ数を分子においた数値である³。日本語母語話者では、3項動詞、2項動詞、1項動詞それぞれの容認率が、0.95、0.86、0.69であり、中国人学習者では、0.89、0.73、0.55であった。このことから、日本語母語話者、中国人学習者共に、3項動詞、2項動詞、1項動詞の順に、容認率が低くなることが分かった。しかしながら、同じ項でも、動詞により容認率に違いが見られたため、以下では、それぞれの項における動詞毎の容認率を細かく見ていく。

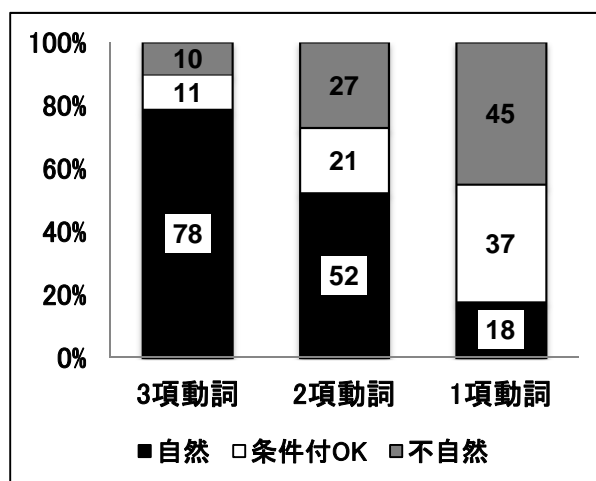
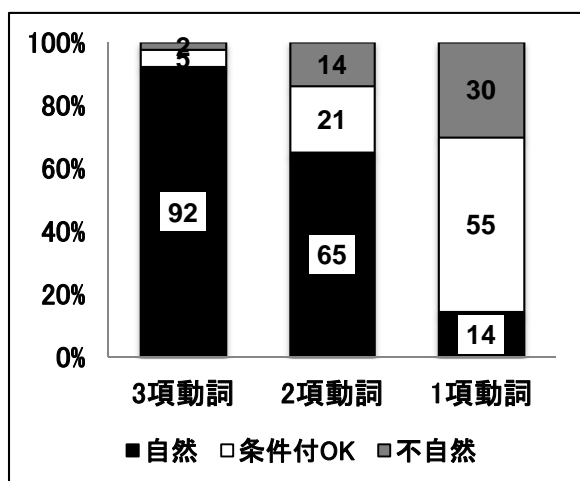


図2 日本語母語話者の動詞の項別選択割合(%)

図3 中国人学習者の動詞の項別選択割合(%)

まず、3項動詞に接続した「てくれる」文の動詞別容認率を図4に示す。図4から分かるように、3項動詞に接続した「てくれる」については、日本語母語話者、中国人学習者共に、全体的に高い容認率を示している。3項動詞は物の「移動」や「所有」が知覚されやすく、授受本動詞（あげる・もらう・くれる）に用法が近いためであると考えられる。また、3項動詞には、授受補助動詞の導入の際と一緒に提示された動詞が多いことも関係していると思われる⁴。一方で、3項動詞のうち「約

³ 福田・稲垣 (2013) に倣い、「容認率」を算出した。

⁴ 調査対象の、中国人学習者は、学部1年次に『みんなの日本語I』で「てくれる」を学習しており、図2の3項動詞「貸す」「送る」「教える」が「てくれる」と共に教科書に出現している。

日本語母語話者と中国人学習者の「てくれる」文容認度の違いについて
 —先行する動詞が「てくれる」の習得に及ぼす影響—

束する」だけは、中上級学習者において、低い容認率を示している。これは、刺激文の「約束する」が、学習者にとって馴染みのない用法であったことが影響した可能性がある。学習者は、「友達と約束する」という文で、「約束する」を目にすることが多いと思われるが、刺激文は、「上司が私に将来を約束してくれました」となっており、構文が「～に～を」である上、意味も「確約」に近いものであった。したがって、「約束する」が普段見聞きしている例と違う形で提示されたことにより、容認率が下がった可能性が高い。

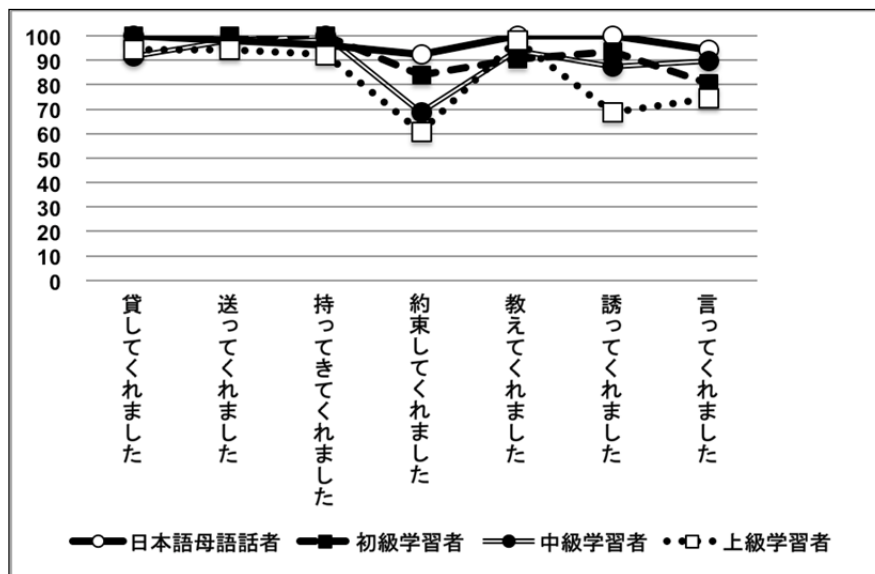


図4 3項動詞の動詞別容認率 (%)

次に、2項動詞に接続した「てくれる」文の動詞別容認率を図5に示す。日本語母語話者は、「作る」「買う」「歌う」「協力する」「褒める」「励ます」「分かる」「叱る」の8つの動詞に接続する「てくれる」文については、容認率が高いが、「笑う」「殺す」「辞める」の3つの動詞に接続する「てくれる」文は、容認率が低い。したがって、同じ2項動詞の中でも、この3つの動詞については、日本語母語話者であっても、「てくれる」が使用できる文脈が思い浮かびにくいと言える。中国人学習者においても、日本語母語話者に似通った容認率であったが、上級学習者においては、「協力する」「褒める」「励ます」「叱る」に接続する「てくれる」文についても容認率が低かった。「協力する」「褒める」「励ます」といった動詞は、岡田(1997)で指摘されているように、すでに恩恵を含意している動詞であるため、「てくれる」が不要であると判断した可能性がある。また、「叱る」に関しては、前者とは反対に、悪い意味で用いられることが多いため、恩恵を表す「てくれる」と

は結びつかないと判断したのではないだろうか。以上のように、2項動詞においては、日本語母語話者においても容認率の低いものがあり、動詞の意味と「てくれる」の持つ恩恵の意味との兼ね合いにより、自然であるか否かを判断していたと推察される。

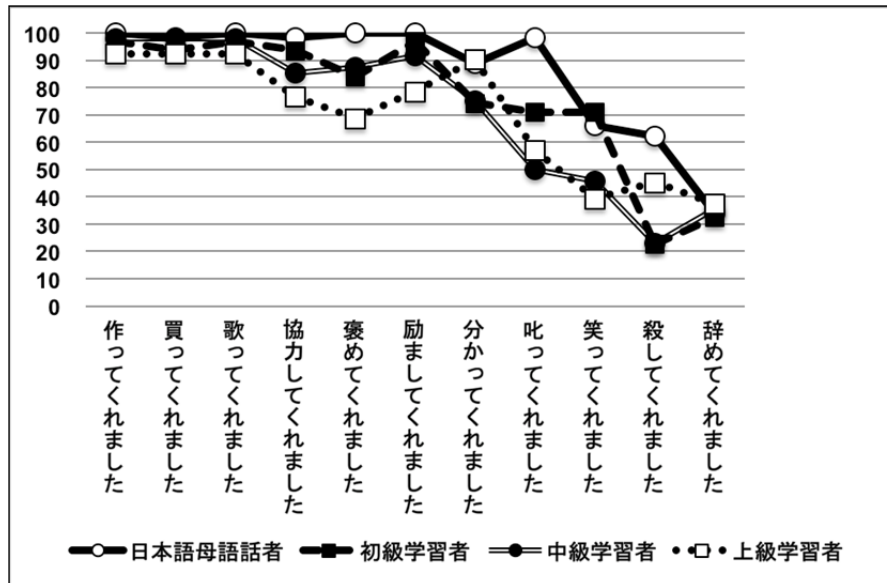


図5 2項動詞の動詞別容認率 (%)

最後に、1項動詞に接続した「てくれる」文の動詞別容認率を図6に示す。図6から分かるように、日本語母語話者においては、「降る」「死ぬ」「混む」の容認率が低かった。したがって、「死ぬ」という恩恵を感じにくい動詞に加え、「雨が降ってくれました」「道路が混んでくれました」という無生物主語の場合に、日本語母語話者の容認度が著しく低くなることが分かった。一方、中国人学習者は、日本語母語話者に比べ、全体的に容認率が低いですが、無生物主語の「降る」「混む」で、日本語母語話者よりも初級学習者の容認率が高い点が特徴的である。中国人学習者において、1項動詞の容認率が低い理由は、自動詞に「てくれる」が接続した例を目にする機会が少ないことが影響している可能性がある。また被行為者（受け手）が文中に明示されないため、授受本来の「移動」の意味が分かりにくいと言える。一方で、日本語母語話者では容認率が低かった無生物主語の「てくれる」文の容認率が、初級学習者において、それほど低くなかったのは、中国語においては、無生物主語が頻繁に見られることが関与していると推察される。

以上の結果から、日本語母語話者、中国人学習者において最も容認率の高かった3項動詞は、「てくれる」文として最も典型的で、日本語学習者の習得も早いことが示唆された。一方で、2項動詞、1項動詞の順に、容認率が下がり、1項動詞を含む無生物主語の「てくれる」文は、日本語母語話

日本語母語話者と中国人学習者の「てくれる」文容認度の違いについて
—先行する動詞が「てくれる」の習得に及ぼす影響—

者であっても、使用可能な文脈が思いつきにくいことが分かった。中国人学習者では、2項動詞および1項動詞の中でも、動詞自体に恩恵性が含意される場合や、動詞の持つ意味がネガティブな場合に、「てくれる」文の容認率が下がる傾向が見られたため、動詞の持つ意味が、「てくれる」の習得に影響している可能性がある。

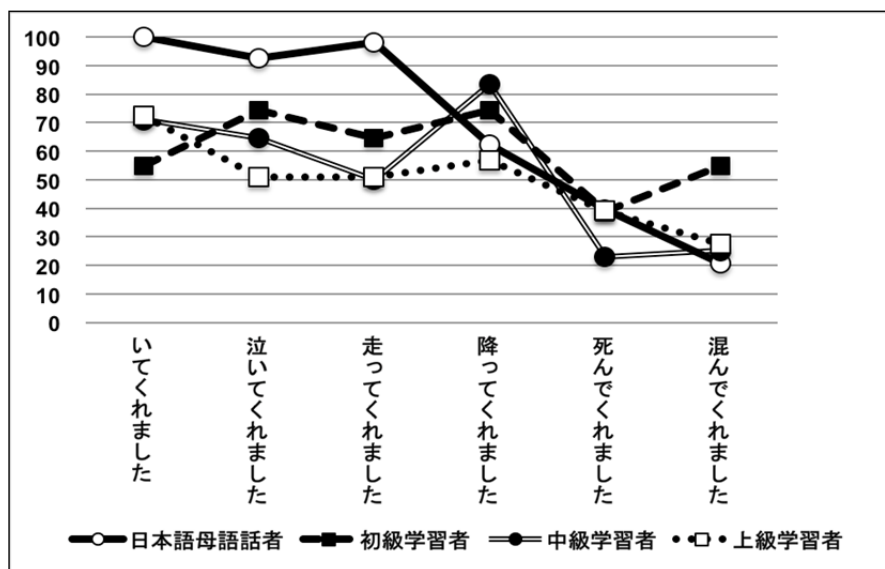


図6 1項動詞の動詞別容認率 (%)

6. まとめと今後の課題

日本語母語話者および中国人学習者に対する容認度テストの結果をまとめると、以下のようになる。

(課題1) 中国人学習者は、日本語母語話者に比べ、「てくれる」文の容認度が低いことが分かった。

また、中国人学習者の中でも、初級よりも中上級学習者において、特に容認度の低さが認められた。

(課題2) 日本語母語話者、中国人学習者共に、3項動詞、2項動詞、1項動詞の順に、「てくれる」

文の容認度が低くなったことから、物の移動およびその所有が知覚しやすい3項動詞に「てくれる」が接続した文が最も典型的で、習得が早いことが示唆された。

以上から、「てくれる」文に先行する動詞の種類が、日本語母語話者および中国人学習者の「てくれる」文の容認度に影響することが分かった。物の「移動」や「所有」が知覚されにくい1項動詞や、無生物主語の「てくれる」文については、日本語母語話者であっても、使用できる文脈が思

い浮かびにくいいため、どのような場合において使用できるのか、コンテキストと共に教示する必要があると言える。どのような文脈で使用されるのかについては、今後日本語母語話者のコーパスの分析等を通して解明したい。

また、中国人学習者においては、「てくれる」文に先行する動詞の意味の良し悪しが容認度を左右する可能性が示唆されたが、動詞の意味の良し悪しの判定が難しく⁵、本研究では、詳細に分析することができなかった。それゆえ、今後はテスト後にフォローアップインタビュー等を実施し、学習者が刺激文をどのように理解し、どのような基準で自然さを判定していたのかについても探りたい。

引用文献

- 池原悟・宮崎正弘・白井諭・横尾昭男・中岩浩巳・小倉健太郎・大山芳史・林良彦（1997）『日本語彙体系 5 構文体系』岩波書店。
- 大塚純子（1995）「中上級日本語学習者の視点表現の発達について—立場志向文を中心に—」『言語文化と日本語教育』9号, 水谷信子先生退官記念号, pp.281-292, お茶の水女子大学日本言語文化学会。
- 岡田久美（1997）「授受動詞の使用状況の分析—視点表現における問題点の考察—」『平成9年度日本語教育学会春季大会予稿集』pp.81-87.
- 韓京娥（2005）「日本語の「～てあげる・くれる」と韓国語の「-e cwu-（～テアゲル・クレル）」の意味機能」『平成17年度日本語教育学会秋季大会予稿集』pp.223-228.
- 田中真理（1999a）「Oral Proficiency Interviewにおける日本語ヴォイスの習得順序—文生成テストとの比較」『視点・ヴォイスに関する習得研究—学習環境と contextual variability をを中心に—』文部省平成8-9年度科学研究費補助金基盤研究研究成果報告書, pp.115-158.
- 坂本正（2000）「日本語の授受動詞の習得—母語と第二言語を比較して—」『日本文化学報』9号, pp.107-118, 韓国日本文化学会。
- 趙順文（1995）『結合価文法論考』台北：立昌出版社
- 西川真理子（1995）「日本語の授受表現再考—「～てくれる」を中心に—」『平成7年度日本語教育学会春季大会予稿集』pp.55-60.
- 福田純也・稲垣俊史（2013）「上級日本語学習者による目的を表す「ために」と「ように」の習得

⁵ 例えば、「泣く」は動詞単体では、ネガティブな意味を持つが、「私のために泣く」と言った場合、ポジティブな意味になる。

日本語母語話者と中国人学習者の「てくれる」文容認度の違いについて
—先行する動詞が「てくれる」の習得に及ぼす影響—

—「ために」の過剰般化は中国語話者に特有か— 『日本語教育』 156号, pp.31-44.

益岡隆志 (2001) 「日本語における授受動詞と恩恵性」 『言語』 第32巻5号, pp.26-32, 大修館書店.

水谷信子 (1985) 『日英比較 話し言葉の文法』 くろしお出版.

三宅智宏 (1996) 「日本語の受益構文について」 『国語学』 186号, pp.1-4.

Kellerman, E. (1985) If at first you do succeed. In S. Gass & C. Madden (Eds.), *Input in second language acquisition*. pp.345-353, Rowley, MA:Newbury House.

Masuoka, T. (1981) Semantics of the benefactive constructions in Japanese, *Descriptive and Applied Linguistics 14*.

付記および謝辞

本稿は、平成19年度九州大学大学院修士論文『「～てくれる」に先行する動詞の習得について—中国語母語話者に焦点をあてて—』の一部を加筆・修正したものです。調査にご協力下さった九州大学および曲阜師範大学の学生の皆様に心より感謝申し上げます。